



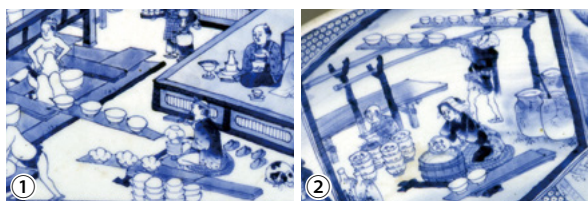
有田ならではの競技 ～皿板かつぎ競争～



皿板をかついで運搬する人物（『佐賀県一新風土記』岩波写真文庫 1958年発行より転載）

前回の館報142号で、「皿かぶり競争」についてご紹介しましたが、その調査中に面白いことが分かったので、今号ではそれをご紹介したいと思います。「皿かぶり競争」と並ぶ有田独特の競技、「皿板かつぎ競争」の始まりが分かったのです。

そもそも、「皿板かつぎ」とは何でしょうか。窯業関係の方にはとてもなじみが深いと思いますが、簡単に説明します。皿板とは、幅15cm前後、長さ1m80cm前後の杉の板で、成形、乾燥、運搬、絵付け、施釉など、やきものの製作のあらゆる場面で用いられている道具です。これに割れやすい生地・素地を載せ、肩や腕に乗せて運搬することを「皿板かつぎ」とよんでおり、落とさないようにするには熟練の技が必要です。



「有田皿山職人尽し絵図大皿」（有田陶磁美術館蔵）に見える皿板の使用状況

①成形した生地を置いている様子。②施釉した素地を乾燥させている様子。

「皿板かつぎ競争」は、主に素焼き素地を皿板にのせて肩に担いで走り、順位を争うものです。なんともやきものの町らしい競技ですが、現在でも、町民スポーツ大会などで行われています。

この「皿板かつぎ競争」について、昭和35年（1960）9月25日の『有田公民館機関紙ARITA』に、このような記事がありました。

「町民体育大会 十月二日執行決定。体育部長と体育協会役員協議の結果～（中略）～陸上競技の種目のう

ち、昨年までのパン食い競争を、陶都の町にふさわしく皿板競争に改め～（後略）」

当館は、昭和27年（1952）以降の町民運動会（町民スポーツ大会の前身）の写真を収蔵していますが、その中に、まさに昭和35年10月2日に実施された「皿板かつぎ競争」の写真が残っていました。

昭和35年の町民運動会（有田小学校）で、皿板かつぎ競争が行われた様子。



有田町の第一回の町民運動会は、昭和12年（1937）6月1日に実施されていますが、大正14年（1925）には青年団主催の運動会の記録なども残されており、古くから社会体育活動が盛んであったことが伺えます。昭和22年（1947）には、県下でもいち早く体育協会を組織しており、昭和26年（1951）の国民体育大会では、有田町体育協会が優秀団体として表彰されています。

先進的取り組みを行っていた当時の体育協会の面々が、有田にふさわしい競技を熟考した末に「皿板かつぎ競争」が誕生したのかと思うと、なかなか感慨深いものがあります。

「皿かぶり競争」に比べて少し難しい「皿板かつぎ競争」ですが、どちらも有田独特の二大競技として、永く続いて欲しいと思います。まだ体験したことのない方は、今月22日に開催される町民スポーツ大会（東地区）のプログラムにもあるので、ぜひ挑戦してみてください。（永井）

皿山

季刊

No.143

秋

2024

有田町歴史民俗資料館・館報

夏休み子ども向け講座の開催

有田町歴史民俗資料館では、例年夏休みに子ども向け講座として「歴史の川ざらい～ベンジャラを探そう」と「有田内山の町屋模型作り教室」を開催しており、今年の講座についてその活動内容を紹介したいと思います。

●【第11回 歴史の川ざらい ～ベンジャラを探そう】

今年から参加申込の方法を、当館HP経由に一元化しましたが、受付開始日早々定員を超える13名の申し込みがありました。

有田町内を流れる有田川の支流白川川には、川底にたくさんの陶片（ベンジャラ）が落ちています。これらの陶片は、江戸時代以降の登り窯で失敗品として廃棄されたものが、川に流れ込んだもので、400年以上もの窯業の歴史を誇る有田を象徴する風景の一端です。

この講座は、実際に川に入って、より古い陶片ほど高得点を得るゲーム形式で探してもらうことにより、有田ならではの光景や風情に直接触れることで、郷土愛や誇りを持ってもらおうという企画です。

8月1日(木)、参加した子どもたちは、まず初めに資料館に集合して、職員から陶片の見分け方や現地での注意事項などの説明を聞いて、いざ出発。現地では炎天の中、最初は川べりを恐る恐る探していたものの、しばらくすると濡れることも気にせずジャブジャブと川へ入り、川底に沈むたくさんの陶片とにらめっこ。中にはその鑑識眼を活かし職員を唸らせるような発見をしてくれた子どももいました。今回の川ざらいでは、参加者全員が江戸時代の陶片を発見することができ、盛況のうちに終了しました。

発見した陶片は、貴重な文化財であるため法律上持ち帰ることはできませんが、資料館で大切に保管します。なお、来年のGW期間中には今回の採集陶片を旧田代家西洋館（幸平）にて、一般公開する予定です。で楽しみにお待ちください。



川に入って陶片を探す子どもたち

●【第23回 有田内山の町屋模型作り教室】

例年午前中のみ2日間開催してきた模型教室ですが、昨年より丸1日（9時～16時）での開催に変更しました。2日間の拘束がネックとなり減少気味だった参加者も、今年は定員を満了す10名の参加者があり、8月8日(木)に開催しました。

この講座は、国の重要伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）に選定されている有田内山の町並みについて学ぶことで、やきものの町の特異な景観や歴史に触れ、郷土への理解を深めてもらうことを目的としています。内容としては、実在する約200分の1サイズの町屋の模型に、道、樹木ほか景観を構成する様々な要素を組み合わせ、自分たちが理想とするオリジナルな町並みを作ってもらう講座です。

参加した子どもたちは、まず初めに職員から伝建地区の説明を受け、その後現地を散策し、準備されている模型の一つでもある、国指定重要文化財の旧田代家西洋館の内部に入って見学しました。教室に戻った子どもたちは、現地での説明と体験からイメージを膨らませたあと、模型作りのスタートです。

1軒目の模型製作は、カッターの使い方に慣れるため慎重に行いましたが、すぐに慣れて、そつなく2軒、3軒と作成していくうちにあっという間に午前中が終わりました。午後からは、町並みの土台作りです。町屋模型を中心に道や池、草木などを自由に配置し、15時を過ぎるころにはほとんどの子どもたちがそれぞれ個性的な町並みを完成させました。今回の講座を通して、文化財への関心、生まれ育った有田町への愛着をもち続けてほしいと思います。



見本の模型を見ながら、町並み製作を相談する子どもたち

●博物館実習生がやってきました

当館では、博物館実習やインターンシップ、各種研修を希望する方々からの問い合わせを毎年大変多くいただいています。その要望にお応えするために、特に大学生の博物館実習に関して、令和5年度から「博物館実習生申込要綱」を作成し、当館HP上に掲載しています。今年は2名の応募があり、8月5日～9日までの5日間の日程で実習を行いました。

学芸員とは、博物館資料の収集、保管、展示や調査研究などを行う専門の職員をいいます。教員などと同様に国家資格で、大学において専門科目を履修して単位を取得する方法が一般的です。そして、一定の単位を取得したのち、実際に学外の博物館等で実践を通じて知識や技術を身に付け、専門職としての心構えを育むために実施するのが博物館実習です。

今回実習に参加したのは、大東文化大学と専修大学の女性2名でした。実習の基本的なカリキュラムは、文化庁の定める博物館実習の内容に沿って行いますが、有田町らしい内容も盛り込んで実習を行いました。水洗い、注記、実測といった考古資料の一連の整理作業をはじめ、ミニ展示計画の作成、さらには、史跡探訪や夏休み子ども向け教室の体験など、これまでの大学の講義では経験することのない内容を体験してもらいました。

今回の実習が学芸員として、また、社会人として将来を担う上で、何らかの形でお役に立てることを願い、実習生より頂いたコメントを紹介させていただきます。



『城山観音堂磨崖種子』(有田町指定文化財)での拓本作業

出土遺物への注記作業



実習生のコメント

8月5日から、博物館実習をさせていただきました、専修大学の小林です。

実習では、博物館の4つの機能である、資料の収集、整理保管、調査研究、教育普及活動を実際に体験することができ、かけがえのない学びを得る機会となりました。

私が特に印象に残っているのは、石碑の拓本調査と史跡探訪です。拓本調査は、室内の授業で行ったものと大きなギャップを感じ、現場（現地）での調査の難しさを知ることが出来ました。史跡探訪では、泉山磁石場や多くの窯跡を見学することができ、改めて有田町が歴史のある町であり、人の想いと共に伝統が継承されている町であることを学ぶことが出来ました。遠方からの参加で不安もありましたが、学芸員の方の実際の仕事内容だけではなく、有田の魅力に触れることができ、思い出に残る実習となりました。

8月5日から、有田町歴史民俗資料館で学芸員実習をさせて頂いた、大東文化大学の森です。実習では、出土遺物である陶片の水洗いや接合・注記・実測の作業や、有田町の指定文化財の一つである、城山観音堂磨崖種子の拓本作業など、有田ならではの貴重な体験を沢山させて頂くことができました。注記や実測の作業は特に難しかったですが、どの作業も初めてで面白かったです。

有田焼や有田の歴史について様々な人々に知ってもらうために博物館があり、史跡を守り伝える

ことまでも、学芸員の方々が日々精進されていることを肌で感じました。

有田焼に関する新しい研究の情報もたくさん聞かせて頂き勉強になりました。有田で実習ができてよかったです。

●社会人研修

博物館実習生が実習を行っていた期間に、実はもう1名研修を行っていた方がいました。佐賀県内の3年目を経験した教職員を対象に、企業や文化・福祉施設などで体験研修を行うというもので、西有田中学校の原口蓮先生に8月7日(木)・8日(金)の2日間、実習生や職員と一緒に実務を体験してもらいました。

初日は朝から、唐船城の麓にある町指定重要文化財

「城山観音堂磨崖種子」の拓本作業を、汗を流しながら行い、午後からは出土遺物への注記作業と、翌日に控える模型教室の準備をしてもらいました。2日目は、その教室をお手伝いいただきましたが、さすが学校の先生、子ども達への適切な接し方や指示には驚かされました。滅多に体験できない濃厚な2日間だったのでないでしょうか。今回の経験が学校現場で活かされることを期待しています。



有田三館スタンプラリー、 開始します！

館報141号で紹介しましたが、昨年、有田工業高等学校デザイン科に所属されていた山本真那さんが、課題研究として取り組まれた「有田町歴史民俗資料館」「有田陶磁美術館」「旧田代家西洋館」のスタンプが、このほど完成いたしました。そこで、「有田三館スタンプラリー」を下記の通り実施いたします。

皆さん、どうぞご参加ください！

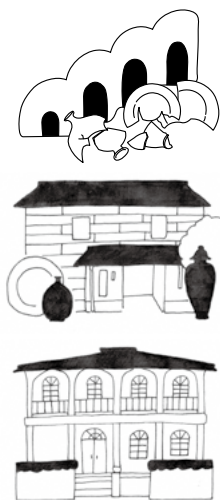
期 間：令和6年9月3日(火)～

スタンプ設置場所：有田町歴史民俗資料館入り口
有田陶磁美術館入り口
旧田代家西洋館入り口

実施内容：「有田町歴史民俗資料館」「有田陶磁美術館」「旧田代家西洋館」にご来館いただき、三館のスタンプを集めて、専用台紙にスタンプしてください。三つのスタンプを集めた方には、ポストカードをプレゼントします。

※※注意事項※※

- ・月曜日は有田陶磁美術館が休館しているため、スタンプラリーを行うことができません。
- ・旧田代家西洋館のスタンプは、開館日の土・日・祝日は同館入り口にて押印できますが、休館日である平日（火～金）は、有田陶磁美術館で押印することができます。
- ・「有田町歴史民俗資料館」「有田陶磁美術館」は有料120円となっています。高校生以下は無料です。



上から順に、有田町歴史民俗資料館、有田陶磁美術館、旧田代家西洋館のスタンプ



スタンプ台紙



「伝建デジタルde スタンプラリー」開催中！

来年の令和7年（2025）は、昭和50年（1975）に伝統的建造物群保存地区（以下、伝建地区）制度創設から50年の節目の年となります。そこで、有田町も加盟している、全国伝統的建造物群保存地区協議会では、これを記念して、多くの人々に「伝建」の価値を伝え、そこに暮らす人々との交流を促進するために、デジタルスタンプラリーを開催することとなりました。

佐賀県には、有田町の「有田内山」をはじめ、嬉野市の「塩田津」、鹿島市の「浜庄津町浜金屋町」、「浜中町八本木宿」の4つの伝建地区があります。この機会に、伝建地区を散策してみたいはいかがでしょうか。

詳しくは、全国伝統的建造物群保存地区協議会（伝建スタンプラリー担当 山口県萩市文化財保護課：0838-25-3166）又は、全国伝統的建造物群保存地区協議会ホームページ（<https://www.denken.gr.jp>）をご覧ください。

参加はこちら！



開催期間：

令和6年8月7日(火)～
令和8年1月25日(日)

参加方法：

左記QRコードから参加登録いただき、期間中に全国129か所の伝建地区を回ると、デジタルスタンプを獲得できます。

（スマートフォン等の通信機器が必要です）

既定の個数のスタンプを集めると、全国各地の伝建地区の名産品が当たる抽選に応募できます。（お一人様何回でも応募可能です）

- ・A賞：5000円相当（スタンプ10個で応募可能）
- ・B賞：3000円相当（スタンプ5個で応募可能）

季 刊 『皿 山』

通巻 143 号（令和6年9月1日）

編集・発行 有田町歴史民俗資料館

〒844-0001 佐賀県西松浦郡有田町泉山一丁目 4-1

☎ 0955-43-2678 FAX0955-43-4185

URL： <https://www.town.arita.lg.jp/rekishi/>